20. 国有林野事業のＰＲ活動について

雫石営林署

○神孝幸　堀内正直　佐々木弘義　齋藤英昭　木村喜則　沢藤和則

1．はじめに

当署では、造林、製品生産、治山等の各事業を行っているほか、図１のようにブナ天然林施業指標林、葛根田川源流部森林生態系保護地域、ヒューマングリーンプランの岩手高原スキー場、９３年アルペンスキー世界選手権大会開催予定地の雫石スキー場、南八幡平自然休養林などがあり、国有林野事業の役割を現場で理解するのに適している地区が数多くあります。

また当署が位置する雫石町はスキー場の外に、小岩井農場などがあり年間２５０万人の人が訪れる観光地で、ＰＲ活動に適しています。

しかしながら、これまでＰＲ活動をあまり行っていないため、雫石町の観光や地域振興に国有林の活用が大きく寄与しているなど、国有林野事業の役割はあまり知られていないのが現状です。

このため、ＰＲ活動に取り組みしたので報告します。

2．ＰＲ行事等実施結果

1）植樹祭

５月３０日に、雫石町と共催で、大村小学校児童、林業関係者、県会議員、町議など約１００名の参加を得て植樹の意義を広報するために植樹祭を開催しました。会場の６５い 林小班はスギの人工林を伐採した箇所であり、参加者でスギの再造林を行いました。また、小学校児童には紙芝居のようにして、木を大きく育てる方法の森林教室も行いました。

写－１

植樹祭で森林教室を行っている状況。

2）ふれあいの森に集う会

１０月１７日に、ブナの天然林施業指標林の「国見ふれあいの森」において林業関係者、緑のオーナー、自然保護団体関係者、町役場職員、橋場小学校児童など約１００人の参加を得て「集う会」を開催しました。

この森は森林施業と山の活力あるいぶきを、見ていただくために設定しているもので案内板などの設置を記念し、おひろめをかねて開催しました。

当日は、世界アルペンコンパニオン２人に一日営林署長を委嘱、委嘱状は天スギ端材の板を用い、橋場小学校には木の香りのする教材を贈呈し、営林署ならではの演出に大きな拍手がおこりました。

また一日営林署長、児童代表等によるテープカット、ブナの記念播種、森林教室が行われました。森林教室では４０数年前に炭焼きのため伐採したあと、天然更新によりブナ二次林になったことなどの説明を行い山の活力あるいぶきを理解していただきました。

写－２
一日営林署長に委嘱状をわたしている状況。

写－３
ブナの記念播種をしている状況。

3）その他

森林生態系保護地域は、山菜の宝庫とあってこれまで入林者が相当数あったが、これらの人達に設定の趣旨、入林の規制を理解させ協力を得るため、「チラシの配付」を行いました。

また学校に現地研修などを働きかけており、本年は次の４件の研修（視察）が行われました。

現地研修（視察）の実施状況

ア．岩手大学林学科４年生（森林経理研究室）１３名

５月１３日葛根田川源流部森林生態系保護地域などで研修。

イ．岩谷堂農林高校農林生産科１年生　　４３名

５月２９日葛根田川源流部森林生態系保護地域などで研修。

ウ．岩手大学林学科３年生　　３０名

架線集材による生産事業地で研修。

エ．北海道東北自然保護主管課長会議出席者　１５名

１０月２３日葛根田川源流部森林生態系保護地域などで研修。

３．アンケート調査の実施結果

１）アンケート調査の概要

アンケート調査は、１０月５日～６日に盛岡市の中津川河川敷で開催された岩手県林業祭で実施しました。

どうしたら調査に協力してもらえるかは、いかに人を集めるかにかかってくる。そこでトリカブトの毒に一役かってもらいました。トリカブト２鉢をテントに置き「うわさのトリカブト」と書いて張り紙をした。ほとんどの人は、トリカブトの名はは先刻承知はしているが、実物は見たことがなく皆の関心は高かった。

また、客足が途絶えた頃に「これが噂のトリカブトです」と大声で叫ぶと人が集まって来る。そこを見計らって、アンケートに協力をお願いしますと声をかけアンケートを書いてもらいました。

こうして２日間で２４０人からの協力をいただきました。

写－４
アンケート調査の状況

2）アンケート協力者の内訳（図２参照）

性別では、男１１４人（４７％）、女１２６人（５３％）で年代別では、４０代５５人（２３％）、５０代５０人（２１％）、３０代４９名（２０％）が多かった。

3）アンケート調査結果

ア．好きな木の名前（図３参照）

総回答数６４７で、多い順にスギ８７人、マツ８３人、ケヤキ６５人、サクラ５７人となった。

このことからスギ、マツを除くとどちらかというと目で楽しむ樹木が大半を占めているので今後、国有林でも道路の近くや貸付地の近くではこれらの目で楽しむ木を残すとかサクラなどを植えるなどの見せる山づくりが求められるのではと考えられた。

イ．森林に行く回数（図４、５参照）

１～５回が１５０人で６３％と多かった。

森林に行く目的については、回答が多い順に自然観察、山菜採取、ドライブ森林浴となり、年齢層別では若年層はキャンプやドライブといったレジャー目的が多く、中高年層は自然観察や趣味と実益を兼ねた山菜採取が多かった。

ウ．森林の機能で重要なもの（図６参照）

回答が多い順に、山崩れ、洪水などの災害を防止する働きが２０４人、２８％、水資源を蓄える働きが１６５人、２２％、貴重な野生動植物の生息の場としての働きが１３０人、１８％となり、これらの機能が重要視されていることがわかった。

災害防止や水資源かん養の働きが多く知られている背景には、治山ダムや保安林に設置している標識などの効果があるのではないかと考えられた。

また、野生動植物の保護に関しては、環境問題に対する関心の高さではないかと考えられた。

逆に、木材生産は５３人、７％とあまり重要視されていないことがわかりＰＲ不足を感じさせられた。

エ．国有林（営林署）を見聞きしたことがあるか（図７参照）

営林署を知らないと答えた人は２４０人中８人でほとんどの人は知っていることとなったが、若い年代特に１０代に知られていないようである。

オ．営林署で行っている仕事で知っていること（図８参照）

治山事業などの国土保全は前に述べた通りよく知られており７５％の人が知っていた。

森林生態系保護地域については、設置されて間もないのに７５％の人が知っており注目の高さがわかった。

森林の手入れについては、営林署イコール山の仕事というイメージがあるように８１％と高い数値が得られた。

しかし、森林レクリェーションの場について国有地が利用されていることを知っている人は５７％に過ぎず、スキーコースはすべてスキー場の土地と思っている人が多く、ＰＲ不足を感じさせられた。

この設問のなかで知らないと答えた人のほとんどが、１０代と２０代でありこの年代へのＰＲ活動が特に必要であると考えられた。

カ．どんなイベントを開催すれば参加したいか（図９、表１参照）

回答が多い順に、自然観察会９４人、山菜教室６７人、森林浴５５人などとなり森林に行く回数と同様の結果となった。

また、参加料を払ってでも参加したい人が１６６人、６９％で、参加しない人及び回答なしの人が７４人、３１％となった。

そのうち、１０００円程度が８０人、５００円程度が４１人などとなった。

この結果から、約半数以上の方は５００円～１０００円程度の負担なら営林署が開催するイベントに参加してもよいという答えがあり、今後営林署で行うイベントの参加者の負担の目安となる結果が得られた。

キ．要望とイメージ

イメージとしては森林保護、原生林、自然を守るといった環境保護に関してのイメージが強いことがわかった。

また、行政では一番無愛想、広報が足りない、堅いと全体的には良いイメージ・悪いイメージと二分された意見になった。

要望はＰＲ活動をしてほしい、乱開発をしないでほしい、広葉樹を残してほしいといったリゾート開発による森林破壊に関するものが多く要望され、ＰＲ活動の要望の中にはイメージアップやイベントといった国有林に親しみたくても機会がないといったものもある。

ク．まとめ

以上のアンケート結果から、

1．全般的に、木材生産の意義についてＰＲする必要があると考えられた。

2．１０～２０代に対して国有林の役割、特に森林空間利用についてＰＲ活動を行う必要があると考えられた。

3．一般市民のニーズに応えるため、自然観察会を行う必要があると考えられた。なお、参加料をとる場合１０００円程度までだと参加者が見込まれると考えられた。

4．アイディア集の作成

最後にアイディア集について発表します。

１０００個のアイディアを出すことを目標としました。

アイディアは、実施の可能性の有無にこだわらず奇想天外なアイディアを多く考え出しました。

一例を上げれば次の通りです。

・観光バスのバスガイドに国有林を視察してもらい、国有林についてガイドしてもらう。

・「このスキー場は、国有林を活用して設置したスキー場です。」などの看板を立てる。（厚生年金還元融資施設などの看板のようなもの）

・コース脇の立木に「ここは国有林です。」などのビニール表示札（番号札の大きなもの）をガンタッカーでつける。

・アルペン大会に国有林から木製のカップを贈呈する。または大会事務局に木製カップを購入してもらう。

・管内で自然保護関係も含めマスコミの取材が来た場合、職員が必ず同行してＰＲする。

5．成果および今後の取り組み

各種行事を通じて５００名強の方には、直接国有林の役割等についてＰＲすることができ、またイベント開催時に新聞社等に情報提供を行った結果、何度か新聞に記事が掲載されるなどして広くＰＲすることができた。

今後の取り組みとしては、アンケート調査結果から、ＰＲ不足の点がわかったのでアンケートの意見、要望等を参考にＰＲ活動に取り組んでいきたい。

なお、今年度は実施できなかったが、スキー場への看板設置から取り組みたいと考えている。

図２　　◁性別・年代別グラフ▷

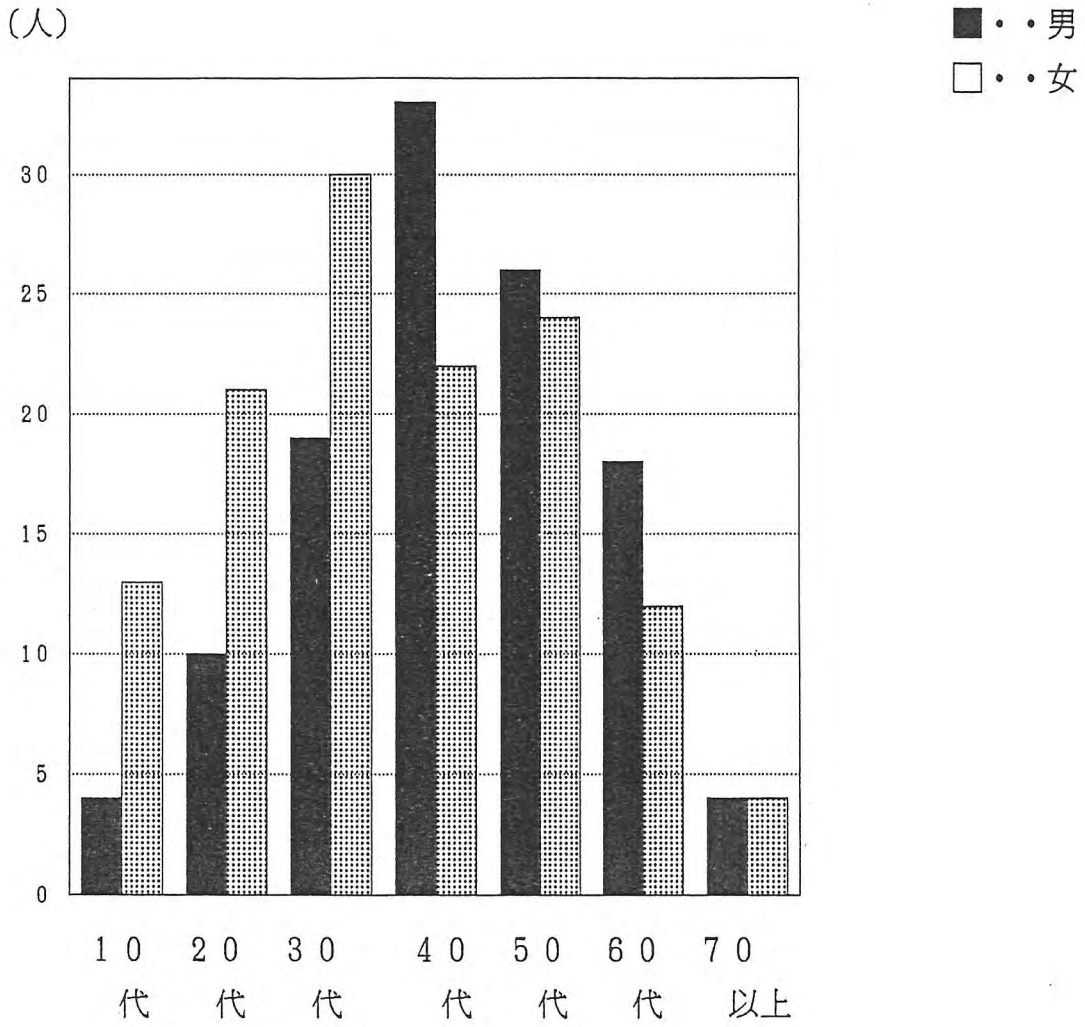
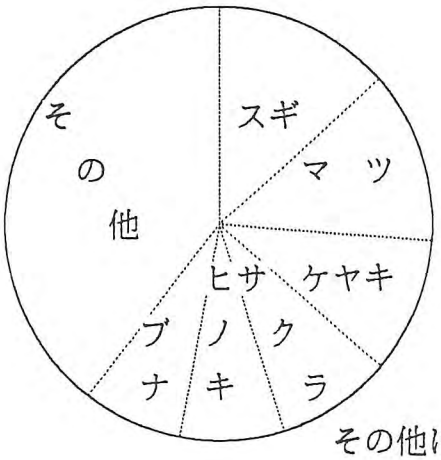


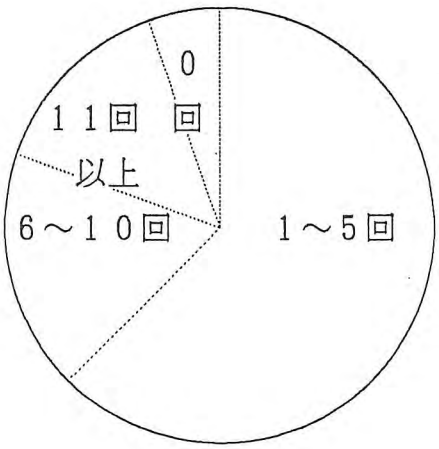
図３　　好きな木の名前（３つまで回答可）



ス　ギ・・・・　８７人
マ　ツ・・・・　８３人
ケヤキ・・・・　６５人
サクラ・・・・　５７人
ヒノキ・・・・　５１人
ブ　ナ・・・・　４９人
その他・・・・　２５５人

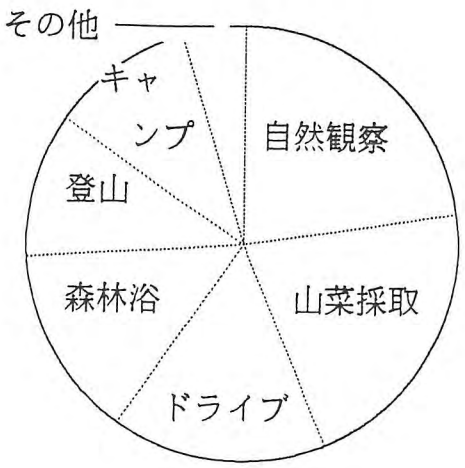
その他にはシラカバ３１人、モミジ２７人、
ヒバ２０人、キリ２０人など。

図４　　森林に行く回数



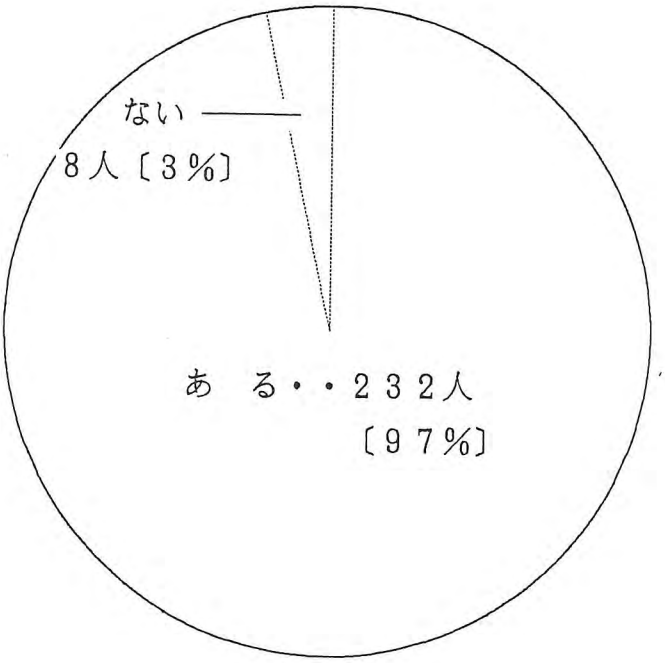
1～　5回・・１５０人〔６３％〕
6～１０回・・　４３人〔１８％〕
１１回以上・・　３４人〔１４％〕
０　回　・・　１３人〔　５％〕

図5　　森林に行く目的（多数回答可）



自然観察・・68人〔23%〕
山菜採取・・63人〔21%〕
ドライブ・・48人〔16%〕
森林浴・・43人〔14%〕
登山・・32人〔11%〕
キャンプ・・32人〔11%〕
その他・・13人〔 4%〕

図7　　国有林（営林署）を見聞きしたことがあるか



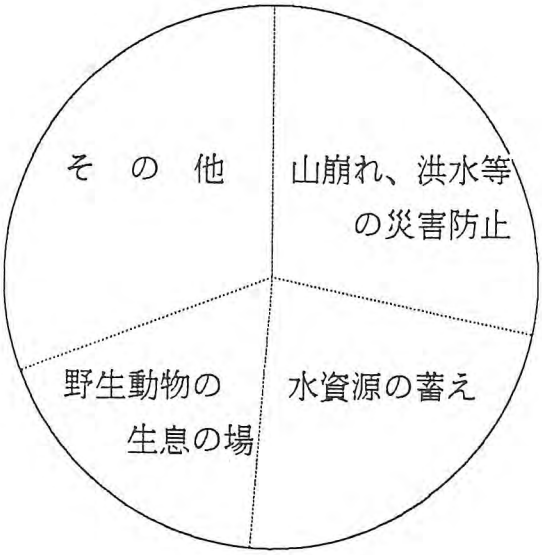
知らない人の内訳

10代・・・6人

20代・・・1人

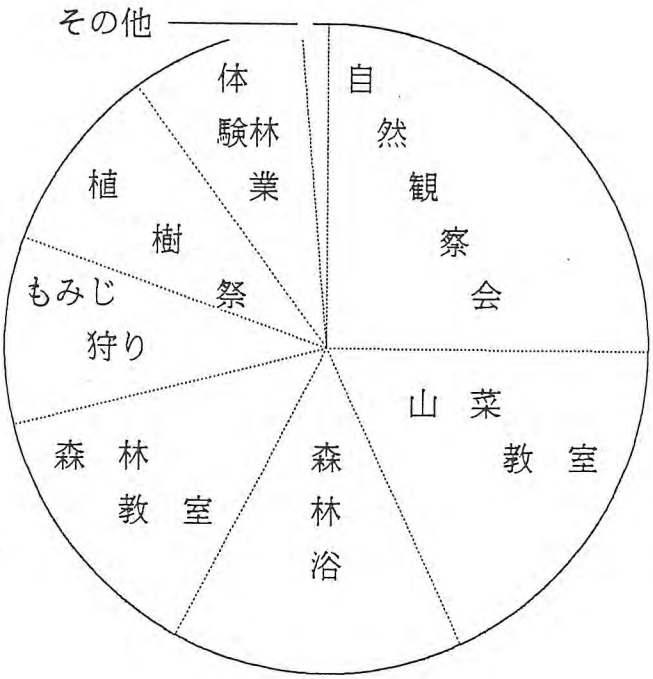
30代・・・1人

図6　　森林の機能で重要なもの（3つまで回答可）



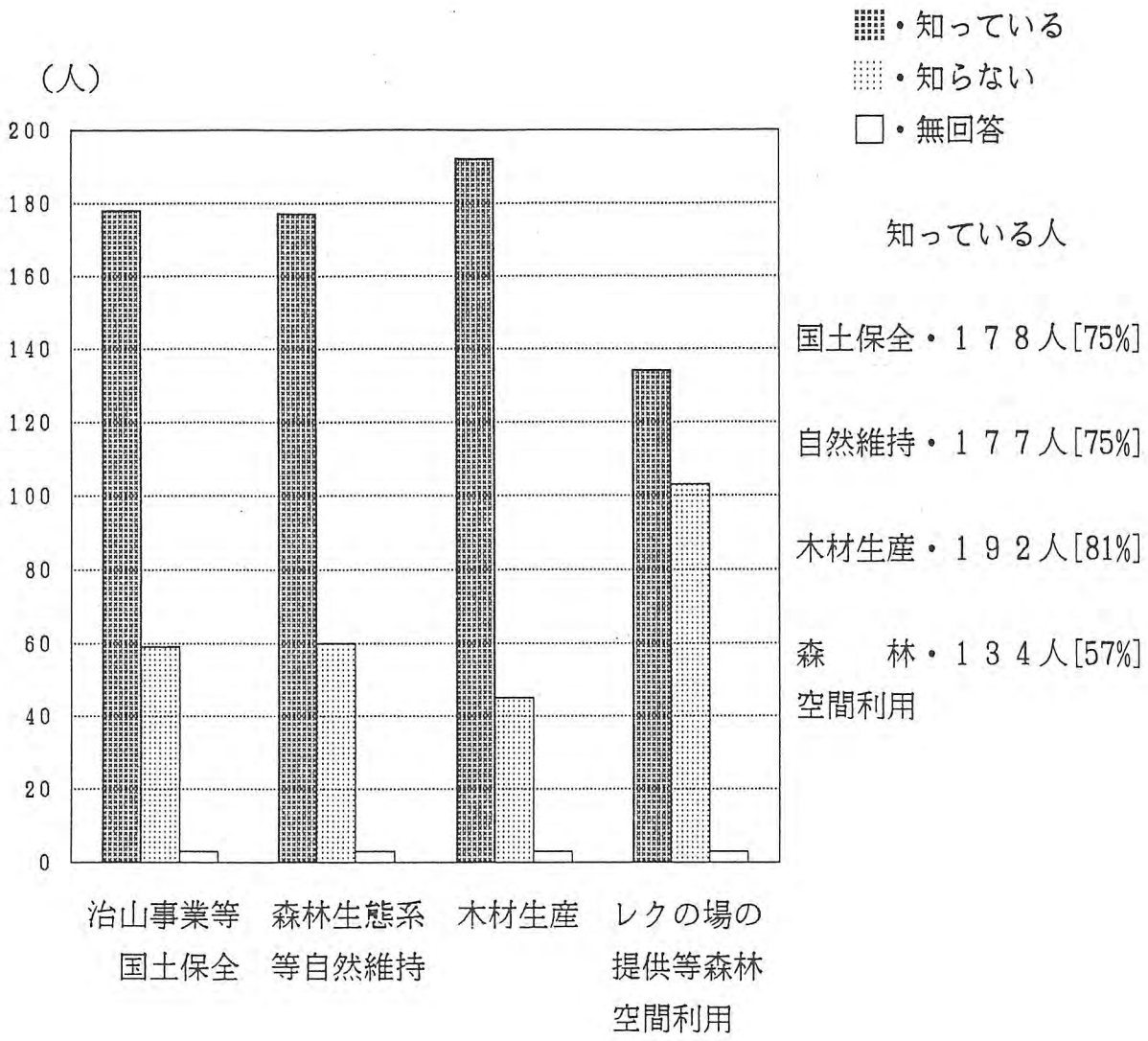
山崩れ、洪水等の災害防止・２０４人〔２８％〕
水資源の蓄え　・１６５人〔２２％〕
野生動物の生息の場・１３０人〔１８％〕
そ の 他　・２３６人〔３２％〕
（大気汚染、騒音防止・・１１３人[15%]
木材生産　・・　５３人[7%]
森林浴等レクリエーション・・　３３人[5%]
山菜等の生産・・　２１人[3%]
教育の場　・・　１６人[2%]）

図9　　イベント（多数回答可）



自然観察会・・・・９４人
山菜教室　・・・・６７人
森 林 浴・・・・５５人
森林教室　・・・・５０人
もみじ狩り・・・・３５人
植 樹 祭・・・・３５人
体験林業　・・・・３３人
そ の 他・・・・　５人

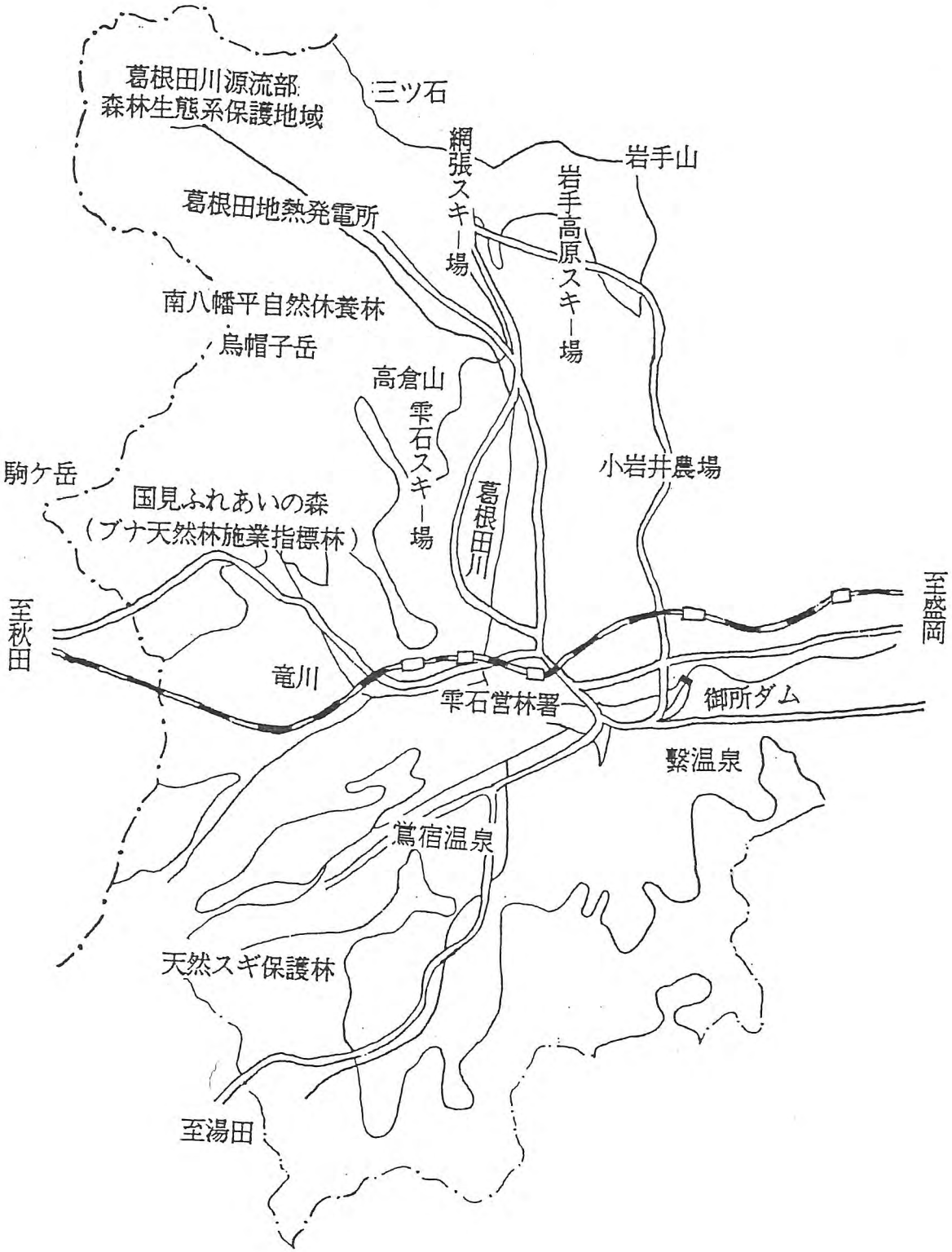
図８　　営林署で行っている仕事で知っていること



（表１）　　イベント参加料

金　額	人数
１０００円程度	８０人
５００円程度	４１
２０００円程度	２１
３０００円程度	２０
５０００円以上	４
参加しない	４４
無　回　答	３０

図１　雫石営林署管内図


葛根田川源流部
森林生態系保護地域
三ツ石
網張スキー場
岩手山
岩手高原スキー場
葛根田地熱発電所
南八幡平自然休養林
烏帽子岳
高倉山
雫石スキー場
葛根田川
小岩井農場
駒ケ岳
国見ふれあいの森
（ブナ天然林施業指標林）
至秋田
至盛岡
竜川
雫石営林署
御所ダム
繋温泉
鶯宿温泉
天然スギ保護林
至湯田